

18. 周年親子放牧に適した牧草種による周年放牧の実証

農林水産研究指導センター畜産研究部

○衛藤央好・齊藤武志

【背景】

近年、周年親子放牧に取り組む事例が増加しているが、利用する牧草が1草種のみ
の例が多く、牧草の生えない冬季は購入したロールを給与しており、厳密には1年を
通しての放牧とはなっていない状況である。そうした中、当研究部では放牧適草種の
選定を行い周年利用できる牧草種を選定した。しかしながら、その試験は小区画での
調査のみであったため、実用規模での確認が取れていないことが課題として残った。

そこで選定した放牧適草種を用いたバヒアグラス（BG）草地へのオーバーシード
（OS）効果の検討と、実際に放牧地への播種を実施し、耕作放棄地を放牧地として利
用することが多い新規就農者等が取り組める放牧技術の実証を行う。

【材料及び方法】

（1）BG草地へOS効果の検討

- ① 供試草地：畜産研究部三重試験地のBG草地
- ② 追播草種及び播種量：トールフェスク（TF）区：5kg/10a、イタリアンライグラス（IR）
区：5kg/10a、TF・IR混播区：それぞれ2.5kg/10a
- ③ 調査項目：生育期（12～5月）は目視による草種毎の冠部被度及び自然草高を測定し、
積算優占度SDR2を算出。収穫期（6～10月）には収量による割合を算出

（2）周年放牧の実証試験

〔試験1〕耕作放棄地における簡易なTF単播草地造成の検討

- ① 供試草地：竹田市の放牧実施農家所有の放牧地(水田の耕作放棄地6a)
- ② 草種及び播種量：TF 5kg/10a ③ 播種方法：蹄耕法及び機械耕→散播

〔試験2〕山林伐開地におけるTF草地造成方法の検討

- ① 供試草地：豊後高田市の放牧実施農家所有の放牧地及び竹林伐開地
- ② 草種及び播種量：TF 5kg/10a ③ 播種方法：蹄耕法及び竹林伐開地への散播

【結果】

OS試験の結果、BGは各試験区で対照区に対してほぼ半分のSDR2で推移し、TFとIR
はほぼ同様の推移をみせた。1回目の刈取調査ではTF、IRとも全体の半分以上を占めて
いたが、2回目以降の刈取調査ではBGがほとんどを占めた。また、2年目の調査ではSDR2、
収量調査ともにTFの再生は確認できなかった。

実証試験では、まず蹄耕法により耕作放棄地にTFを播種したが、TFは初期生育が雑草
に劣るのかなか定着しなかった。その後竹田の試験地で機械耕を取り入れ、定着を確
認した。また、竹林を伐開した直後の圃場では、雑草競合がないせいか定着が確認できた。